

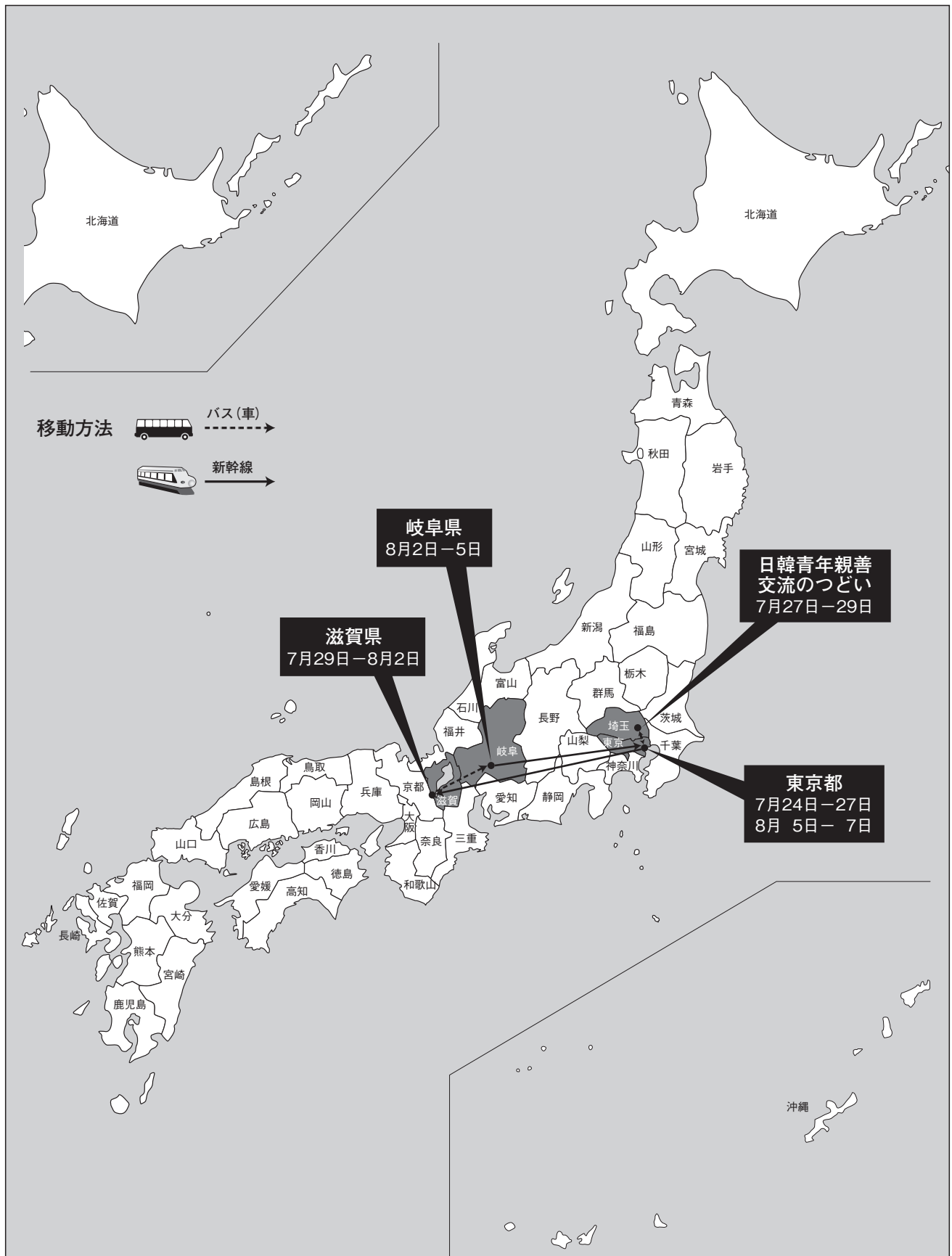
第3章 韓国青年日本招へい

行 動 地 図
行 動 記 録
事 業 報 告



行動地図

平成30年度 韓国青年日本招へい



行 動 記 録

平成30年度 韓国青年日本招へい

	月日	時間	行動日程	都市
1	7月24日 (火)	10:10 15:00-15:20 15:30-17:00 17:30 18:30-19:30	韓国青年ソウル(仁川)発 (KE703) 福田正信内閣府青年国際交流担当室長表敬訪問 オリエンテーション ・事業概要説明、全体日程等説明 ・質疑応答 ホテル着 夕食	東京
2	7月25日 (水)	10:00-15:30 18:30-20:00	<テーマ別視察> 早稲田大学国際教養学部訪問 ・アイスブレイキング ・キャンパスアジアの取り組みについて ・昼食 ・日本青年とのディスカッション テーマ「2050年のアジアを考える」 福田正信内閣府青年国際交流担当室長主催歓迎会	
3	7月26日 (木)	10:00-11:30 12:10-13:00 13:30-16:30 19:00-21:00	<テーマ別視察> 認定NPO法人 PIECES 訪問 ・活動紹介 ・ワークショップ 昼食 一般社団法人 Japan Innovation Network 訪問 ・活動紹介 ・ワークショップ、質疑応答 夕食	
4	7月27日 (金)	<日韓青年親善交流のつどい> 11:00 日本青年施設着、館内見学 11:45 韓国青年施設着 12:15-13:00 昼食 13:30-13:50 開会式 14:00-14:45 オリエンテーション 15:00-16:30 アイスブレイク 16:45-17:30 チェックイン、交流のタペリハーサル 17:30-19:00 夕食パーティー 19:30-21:00 日韓文化交流のタペ ・日韓両国青年による文化紹介		↓ 埼玉
5	7月28日 (土)	9:00-11:30 11:30-12:30 12:30-14:00 14:20-15:50 16:00-17:30 18:30-19:30 19:40-20:40	ディスカッション ①国際交流 ②教育 ③社会 ④政治経済 ⑤職業 昼食 ディスカッション及び動画作成 日韓文化体験まつり 絆を深める運動会 夕食 ディスカッション成果発表のための動画作成	↓

	月日	時間	行動日程	都市
6	7月29日 (日)	9:00-11:00 11:00-11:30 11:30-12:00 13:30 14:30	ディスカッション成果発表 共同制作 閉会式 施設発 東京駅着、解散	↓ 滋賀
		15:33 <滋賀県プログラム> 17:44 19:00 19:30-20:30	東京駅発 (ひかり519号) 米原駅着 ホテル着 夕食	
7	7月30日 (月)	9:00-10:00 10:00-11:00 11:00-17:00 各1時間程度 17:00 18:00-20:30 21:00	オリエンテーション ・滋賀県プログラムについて ・近江八幡について アイスブレイキング グループ別アクティビティ・6グループ (A, B, C, D, E, F) ・昼食 ・ラコリーナ近江八幡見学 ・株式会社カワサキ視察 (伝統工芸の継承について) ・街散策 近江八幡散策 ・八幡堀めぐり・和舟ツアー 集合・アクティビティ振り返り 地元青年による交流会 ホテル着	
8	7月31日 (火)	9:00-11:30 12:00-13:00 13:00-16:00 17:00-18:00 19:00	パネルディスカッション：地元起業家との対談 テーマ「三方良し 近江商人の心得からみる、これからの個人・社会のあり方」 昼食 課題別視察 (2コース) ・奥永源寺 ・Rose Universe co., ltd. 夕食 ホテル着	
9	8月1日 (水)	9:00-12:00 12:00-13:00 14:00-15:30 15:30-16:30 18:00-20:30	グループ別評価会 ・2日間の振り返り ・各グループ発表 昼食 近江 Talk : テーマ「Yume Wo Katate」 ワークショップ「夢語りタイム」 歓送会	
10	8月2日 (木)	9:00- 9:15 10:00	三日月大造滋賀県知事表敬訪問 県庁発	↓ 岐阜
		<岐阜県プログラム> 13:30 15:15 16:30-18:30 19:45-21:15 21:15	長良川うかいミュージアム ホテル着 河原町散策 鶴飼見学 (船内夕食) ホテル着	
11	8月3日 (金)	10:00-11:15 11:30-12:30 13:00-15:00 16:00-16:45 18:30-20:30 20:30	大垣東高校訪問 昼食 奥の細道むすびの地記念館 ・枳つくり体験 ・むすびの地記念館見学 岐阜県環境生活部長表敬訪問歓迎会 兼ホームステイマッチングホームステイ	↓

	月日	時間	行動日程	都市
12	8月4日 (土)	終日	ホームステイ	
13	8月5日 (日)	15:13	ホームステイから帰着 岐阜羽島発 (ひかり524号)	
		17:10 18:30	東京駅着 夕食	東京
14	8月6日 (月)	9:30-11:15 9:40-10:40 10:45-11:15 11:15-11:30 11:45-13:00 13:30-18:00 18:00	評価会 ・グループディスカッション ①本事業に参加して学んだこと ②今後この経験をどのようにいかしていきたいか ③プログラムの要望等 ・グループディスカッション成果発表 ・内閣府による総評 福田正信内閣府青年国際交流担当室長主催歓送迎昼食会 日本青年との都内視察 ホテル帰着 夕食	
15	8月7日 (火)	11:55 13:55	成田空港着 東京(成田)発 (KE704)	

事業報告

平成30年度 韓国青年日本招へい

内閣府は、平成30年度日本・韓国青年親善交流事業（第32回）による韓国青年代表団の招へいを、平成30年7月24日から8月7日までの15日間の日程で実施した。

代表団は、女性家族部多文化家族課行政事務官の趙允禮（チョ・ユンイェ）団長を始め、副団長、通訳及び団員の合計30名で構成された。

各地における活動の概要は、以下のとおりである。

東京プログラム（7月24日～26日）

7月24日12時30分、成田国際空港に到着した韓国青年代表団は、内閣府にて福田正信内閣府青年国際交流担当室長を表敬訪問した後、滞在日程や事業概要についてのオリエンテーションを受け、事業全般に対する理解を深めた。

7月25日午前、早稲田大学国際教養学部を訪問した一行は、大学が行うキャンパスアジアプログラムへの取組みについて説明を受けた。

午後は、学生と「2050年のアジアを考える」をテーマにディスカッションを行った。韓国青年からは「日中韓の交流の輪がこれからも続き、2050年には今より強い絆で結ばれてほしい」「日本の学生と話し合うことができてよかった。話し合いを通じて考えを転換させることもできた」等の感想があった。

18時30分から都市センターホテルにて、福田正信内閣府青年国際交流担当室長主催の歓迎会が開催された。内

閣府幹部を始め、青少年団体関係者、青年国際交流事業既参加者等多くの出席者を前に、韓国青年は文化紹介としてダンスや歌等を披露し、盛況であった。

7月26日午前、一行は認定NPO法人PIECESを訪問した。PIECES代表から説明を受けた後、日本と韓国が共通の問題として子供の孤立化にどのように取り組んでいるかについてディスカッションを行った。韓国青年からは、「日本社会を具体的に学べる時間だった」「深刻な問題について一緒に解決方法を考える時間が意味深かった」等の感想があった。

午後、一般社団法人Japan Innovation Networkを訪問した一行は、SDGsをイノベーションの機会と捉え、様々な企業へイノベーションを促進する活動について話を聞いた後、SDGsに関わる韓国の社会問題を解決するイノベーションについて意見を交換した。



「2050年のアジア」について議論を行う
(早稲田大学)



SDGsとイノベーションに関する講演を聴く
(一般社団法人Japan Innovation Network)

日韓青年親善交流のつどい(7月27日～29日)

7月27日から29日まで、埼玉県越谷市にあるセミナーガーデンで日韓青年親善交流のつどいを開催した。

これは日韓両国の青年が一堂に会し、寝食を共にすることにより、互いの文化や考え方を理解することを目的としているプログラムであり、韓国青年代表団のほか、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本青年と、日韓青年親善交流のつどい実行委員を合わせて約70名が参加した。

今年度は「HIGH! FIVE!! ～5つのきっかけ～」というテーマを設定した。ここにはつどい中、日韓両青年が「ハイファイブ(ハイタッチ)」することで、楽しく交流しあい、5本指にかけて、5つの企画から5つの「きっかけ」を得てもらいたいという思いが込められている。主となるプログラムは、ディスカッションや日韓文化交流の夕べ、日韓文化体験企画等で構成した。

ディスカッションでは、韓国青年から希望があった「国際交流」、「教育」、「社会」、「政治経済」、「職業」の

5つのテーマで意見交換した。日韓両国の青年は、それぞれのグループで青年が果たす役割等を意見交換し、有意義な時間となった。

日韓文化交流の夕べでは、日韓両国の青年が伝統舞踊や合唱、ダンスパフォーマンスなどを披露した。韓国青年による韓国の伝統武道のテコンドーに歌と踊りを合わせたテコン舞、日本青年による二人羽織やねぶた祭の掛け声など、大変貴重な文化交流の場となった。

日韓文化体験まつりでは、日本と韓国の伝統遊びを用意し、参加者が自由に体験できる場とした。互いに教え合うことで、楽しみながら文化を理解することができた。

本プログラムの実行委員13名は、6月上旬から準備を開始し、計4回の実行委員会に加えて、係別ミーティングなどを精力的に行った。それぞれの担当はプログラムの企画立案や当日の司会進行を行い、平成30年度日韓青年親善交流のつどいは成功裏に終了した。

目的

日韓青年親善交流のつどいは日本・韓国青年親善交流事業に参加している韓国招へい青年と、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本青年が一堂に会し、研修施設での生活を共にすることにより、両国青年が相手国に対する相互理解、異文化理解の促進を図り、国際交流活動における感覚を向上させることを目的として実施する。

概要

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| (1) 事業名 | 平成30年度日韓青年親善交流のつどい |
| (2) 主催 | 内閣府 |
| (3) 開催期間 | 平成30年7月27日(金)～29日(日) 2泊3日 |
| (4) 開催場所 | セミナーガーデン(埼玉県越谷市) |
| (5) 参加青年 | 韓国招へい青年 30名
日本参加青年 27名
実行委員 13名 |



約70名の日韓青年が一堂に会し、交流プログラムを行う

プログラム内容

7月27日 (金)	11:00 11:45 12:15-13:00 13:30-13:50 14:00-14:45 15:00-16:30 17:30-19:00 19:30-21:00	日本青年施設着、事前準備 韓国青年施設着 昼食 開会式 オリエンテーション アイスブレイキング 夕食パーティー 日韓文化交流の夕べ ・日韓両国青年による文化紹介
7月28日 (土)	9:00-11:30 11:30-12:30 12:30-14:00 14:20-15:50 16:00-17:30 18:30-19:30 19:40-20:40 21:00-22:00	ディスカッション ① 国際交流 ② 教育 ③ 社会 ④ 政治経済 ⑤ 職業 昼食 ディスカッション及び動画作成 日韓文化体験まつり 絆を深める運動会 夕食 ディスカッション動画作成 マニト発表
7月29日 (日)	9:00-11:00 11:00-11:30 11:30-12:00 12:00-13:00 13:30 14:30	ディスカッション成果発表 共同制作 閉会式 昼食 会場発 東京駅着、解散

プログラム詳細

● アイスブレイキング

初めて出会った青年たちの緊張をほぐし、積極的な交流のためのきっかけをつくるレクリエーションを行った。

じゃんけんハイタッチや数集まりなど、個人で行うものとチームを組んで行うものに分け、参加者がより多くの青年とコミュニケーションをとれるようなプログラム構成とした。



● 日韓文化交流の夕べ

日韓両国の青年たちが、それぞれ準備した自国の文化を紹介し合った。青年たちは各自、伝統衣装や文化紹介用の衣装に身を包みパフォーマンスを行った。

日本青年は、ソーラン節やK-POP ダンス、歌のほか、二人羽織、ねぶた祭の紹介、日舞を行った。

韓国青年は、テコン舞やK-POP ダンス、歌などを披露した。



● ディスカッション

「国際交流」「教育」「社会」「政治経済」「職業」の五つのテーマディスカッションを行った。

青年たちは、それぞれが関心のある分野で自国の現状を紹介するとともに、共通点や差異を見出しながら積極的に意見交換した。最後は各グループが話し合った内容を発表し、成果を共有した。

【ディスカッションテーマ】

＜国際交流＞日韓が良いパートナーになるための国際交流プログラムなど

＜教育＞いじめの実態と予防案など

＜社会＞高齢化時代の世代葛藤、青年層・老年層の共存方法など

＜政治経済＞朝鮮半島の平和統一時代における日中韓関係など

＜職業＞就活における学閥の重要性、ブラインド採用など

【ディスカッション成果】



● 日韓文化体験まつり

前半には韓国青年が韓国の伝統文化の紹介ブースと伝統的な遊びの体験ブースを用意し、日本参加青年と交流しながら自国の伝統を紹介した。

後半には日本参加青年が夏祭りをテーマに色々な体験ができるブースを用意した。かき氷、けん玉、駄菓子釣り、輪投げゲームなど、多様なブースは参加者が自由に交流できる場となった。



● 絆を深める運動会

日韓混合チームを作り、対抗戦を行った。新聞紙玉入れ、オセロ、段ボールリレー、借り物競争など、チームの協力が必要なゲームを行いながら点数を競い合った。

チームのメンバーで協力することで、自然とコミュニケーションをとることができた。



● マニト

マニトとは、相手が気づかないようにこっそり、優しくしてあげたり、プレゼントをあげたりする韓国のゲームの一つ。実行委員は予め、日韓のマニトを組み、マニトの名前が書かれた紙を名札に入れて初日から配布し、つどい期間中自分のマニトを探せるようにした。

そして2日目の夜、今まで自分がマニトからしてもらったこと、マニトに自分がしてあげたことを発表する時間を設けた。プレゼントの伝達ミスのエピソードなどを共有することで一層の友情を深める時間となった。



● 共同制作

最後の企画として日韓青年が団扇に寄せ書きをした。2泊3日間仲良くなった友達同士で日本語と韓国語を混ぜながら団扇にメッセージ書いたり、似顔絵を描いたりすることで深まった友情を確かめることができた。



日本参加青年名簿

No	名前	参加事業
1		平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業
2		一般参加青年
3		一般参加青年
4		一般参加青年
5		一般参加青年
6		平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業
7		一般参加青年
8		一般参加青年
9		一般参加青年
10		一般参加青年
11		一般参加青年
12		平成29年度 世界青年の船事業
13		一般参加青年
14		一般参加青年
15		一般参加青年
16		一般参加青年
17		一般参加青年
18		一般参加青年
19		一般参加青年
20		一般参加青年
21		一般参加青年
22		平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業
23		平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
24		平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業
25		平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業
26		一般参加青年
27		一般参加青年

実行委員名簿

No	名前	担当	参加事業
1		実行委員長、ディスカッション、 日韓文化体験まつり	平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業
2		副実行委員長、共同制作	平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業
3		副実行委員長、文化交流の夕べ、 ディスカッション、日韓文化体験まつり	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
4		アイスブレイク、共同制作	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
5		文化交流の夕べ、 絆を深める運動会、共同制作	平成29年度 世界青年の船事業
6		文化交流の夕べ、共同制作	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
7		アイスブレイク、 ディスカッション	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
8		アイスブレイク、 絆を深める運動会	平成26年度 日本・韓国青年親善交流事業
9		アイスブレイク	平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業
10		絆を深める運動会	平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業
11		文化交流の夕べ、 日韓文化体験まつり	平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業
12		文化交流の夕べ	平成28年度 東南アジア青年の船事業
13		ディスカッション、 絆を深める運動会	平成29年度 日本・韓国青年親善交流事業

念願であったつどいに参加して

今回このつどいに参加することが決まった時、まずはどんなことにも積極的に参加しようと思っていました。それは、韓国に関わる何かに手を付けようにもなかなかできなかったからです。なので初日からとても気合が入っていました。しかし、実際に韓国青年たちと会うまでは緊張の連続でした。自分は韓国語が話せないのはそうですが、韓国語を話せる・理解できる日本人参加青年が大半であり、そうでなくとも韓国にゆかりのある人たちばかりだったからです。だからこそ、より多くのことを経験してやるぞ！と強く思いました。

実際の韓国青年たちとの交流は刺激しかありませんでした。自分が一番に気になったのは、韓国青年は男女を問わず、とても優しく、他人思いであるということ。韓国のゲームの一つである“マニト”では手紙を書いて、メッセージを伝えたりしました。特に、2日目の夜に自由時間があったのでルームメイトと一緒にそれぞれのマニトに何をするのか意見を出し合うことが楽しかったです。また、日本側の出し物であったソーラン節の時には盛り上げるためにペンライトを振ったりしてもらい、踊っているこちら側も楽しめました。

ディベートでも自分たちのグループでは若者と高齢者の世代間葛藤について議論しましたが、日韓間で少子化の問題や介護・福祉系の問題など共通する点は多く、話しやすかったと思います。これらの問題を日韓の青年達が持っている専門知識や国の文化などが違う点を活用しつつ、参考にした方がいいことや改善すべきことを多く見つけることができました。その他にも運動会や日韓の文化紹介などがあり、いろんなイベントをするにつれて

韓国青年たちと仲良くなることができて本当に楽しかったです。

今やりたいことは韓国語を学ぶこととK-popアイドルを知ることです。特に青年たちと話すときにはアイドルは欠かせないものだと感じたので、もっと勉強しなければなと思っています。来年の1月に友達となった日本人青年たちと韓国青年に会いに行く計画を立てているのでその時にいろんなことを話せるといいなと今からワクワクしています。

今まで韓国というと、政治的な問題などでしか聞いたことがなかったためにどちらかといえば韓国に対して良くないイメージを持っていました。しかし、実際に交流してみて必ずしもそうではないということを学びました。青年の中には、日韓関係について勉強している韓国青年もいて、日本のことをよく知ろうとしている姿勢に衝撃も受けましたし、固定概念で韓国のこと見ていたことが恥ずかしくなりました。

つどいが終わった今でも、友達になった韓国青年たち数人と連絡を取ったりしてお互い現状について尋ねたり、韓国の文化などについて疑問に思ったことを聞いたりして学びを深めています。この事業に参加したこと、また、そこで日本人・韓国人青年と交流を持つことが出来たおかげで自分の価値観やモノの見方もまた新しくなったと思います。今後は韓国について時間をかけて理解を深め、少しでも興味がある人達に韓国の魅力を伝えたり、内閣府事業について参加を勧めたりして、日韓関係について考える人・きっかけを増やしていければなと思っています。



自分の「マニト」と手を繋いで輪になって話し合う



運動会で日韓青年がチームとなり絆を深める（筆者左後ろ）

日韓青年親善交流のつどいを終えて

今回、日韓青年親善交流のつどいに参加し、韓国青年と2泊3日の共同生活を送った。私は地方出身・在住であるため海外経験もなく、国際交流ができるネットワークも乏しかったため、参加前から韓国青年と出会えることに期待で心が躍っていた。

日韓青年親善交流のつどいでは主にアイスブレイク、両国文化交流、絆を深める運動会、ディスカッション等、韓国青年と一緒にを行うプログラムを通して、韓国青年と打ち解けていった。その中でも特に印象に残っているのは、両国文化交流とディスカッションである。

両国文化交流では、日本文化紹介の1つとして、青森県弘前市の夏のお祭り「ねぶた」で演奏される「ねぶた囃子」を私は友人と披露した。「ねぶた囃子」を披露した結果、両国の青年に喜んでもらえた。韓国だけでなく日本の青年にまで喜んでもらえたので、少し驚きもあったが、嬉しかった。韓国青年に日本人としての考え方や日本文化を伝える発信者としての役割を少しは果たすことができたと考えている。

ディスカッションでは国際交流をテーマに、日本と韓国の事情を真剣に考えた。事前にテーマについてグループ内で勉強することで、心に余裕を持ってディスカッションに臨むことができた。しかし、日本社会に対する知識・理解不足を実感した。まずは日本についてしっかりと学ぶ必要があることを気付かされた、貴重な時間と

なった。

積極的に韓国青年と会話をするにより、韓国青年の温かみに触れつつ多くのことを学び得ることができた。その中でも、相手国の言語を流暢に話すことができる青年が多いことが印象に残った。日本語が上手な韓国青年、韓国語が上手な日本青年の姿は本当に格好良かった。このような青年と出会えたことで、語学学習のモチベーションが格段に高まった。自分もより相手の考えや本意を理解できるよう、努力する必要があると感じた。

日韓青年親善交流のつどいを通して、私たちは人生を豊かなものにしてくれるかけがえのない大きな財産を手に入れることができた。特に、信用できる友人ができたことは大きな財産だと考えている。貴重なネットワークを大切に継続的に交流を続けていきたい。また、私達は日韓両国で明るい未来を創りたい情熱があることを共有し、青年同士の交流意義や大切さを再認識することができた。日韓青年が交流を続けていくことは、明るい未来への大事な一歩であると思う。私達だからこそできる、日韓の草の根交流を地道に続けていきたい。

最後に、貴重な機会と多大なご支援をいただいた内閣府と一般財団法人青少年国際交流推進センターの皆様、日本青年国際交流機構並びに関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



日韓青年の前で「弘前ねぶたまつり」を紹介し、「ねぶた囃子」を披露する（筆者右）



2泊3日を共に過ごした全員と記念撮影をする

平成30年度日韓青年親善交流のつどいに参加して

今回のつどいは私の韓国に対するイメージを変えとともに未来への希望を与えてくれました。そもそも私が韓国について興味をもった理由は、月並みですがK-POPに関心があったからです。元々韓国に対してあまり良い印象を抱いていなかった私ですが、K-POPや韓国文化に触れて韓国という国についてもっと勉強したいと思うようになりました。そんな時に今回のつどいを知り参加に至りました。

私はそれまでバラエティーやドラマの中でしか韓国の人を見たことがありませんでした。テレビで見えるような芸能人とは違う普通の韓国の人たちと触れ合うことに対して少し不安や不信感もありました。しかし、韓国語を学ぶ身として活きた韓国語で韓国の方と会話をしてみたいという思いもありました。そんな不安の中で招へい団の方達との交流が始まりました。しかし不安な気持ちとは裏腹に招へい団の方は私の拙い韓国語を真剣に理解しようとし、また懸命にコミュニケーションをとってくれました。特に日本よりもはっきりと意見を伝えてくれる韓国の方々には積極的に意見や肯定的な言葉をかけてくれました。彼らのおかげで、私もさらに積極的に周りに接することができるようになりました。今回のつどいの中で表面上だけではなく、本心からの友人が日韓を問わすできたと思います。

また、現代の社会的問題について日韓の学生がともに考えることができました。政治や社会的問題について国を超えて同じ世代の若者たちと真剣に考え意見を交換していく中で今まで全く違うと感じていた韓国の若者も同じ問題意識を持っているのだと気づきました。また、同じような若い世代が国を超えて社会を、世界をよくしていきたいと考えていることに少し驚き、感動しました。以前は社会問題を解決するなんて大それた事が果たしてできるのか疑問に感じていました。しかしこの経験から私たち若い世代が国を超え協力することができれば、今ある社会問題は必ず解決に向かうと確信し希望を持ちました。

今回のつどいに参加してお互いに切磋琢磨しあえる大切な友人を得ることができました。また今までは韓国のポップカルチャーにしか興味がなかった私ですが、もっと韓国という国を知りたい、日韓の抱える問題に向き合いたいと思うようになりました。日本と韓国はよく近くて遠い国と揶揄されます。今でも私の周りには韓国に対してあまり良い感情を抱いていない人がいることも事実です。しかし、今回の交流会で私の韓国への価値観が変わったようにももっとたくさんの人に韓国の文化や人々を知って欲しいと思いました。私のような若い世代から二国の距離をもっと縮める努力をしていきたいと思っています。



仲良くなった青年と写真を撮る（筆者右）



ディスカッションの結果を劇で発表する（筆者右）

日韓青少年交流のつどいに参加して

私が去年韓国派遣団員として参加したことで、あまり好きでなかった韓国のイメージが好転した様に、韓国から来た青年や、日本のつどい参加青年が、日本、韓国っていい国だな、もっと関わりを持ってみようかなと思えるような青年が1人でも増えて欲しいとの思いを第一の自己テーマとして、実行委員長を務めた。

実行委員のメンバーには既参加青年はもちろん、昨年度本派遣事業で出会った韓国青年の中で日本に留学している方にまで声をかけ、最終的に13人のメンバーが集まった。実行委員の半数近くが韓国人になり、各企画、日本人参加青年側の視点と韓国参加青年側の視点の両方から企画を立案でき、お互い参加した際に感じた、良い取り組みや改善したい点などを出し合うことができたことで、日韓どちらの青年にも楽しんでもらえるものを作り上げることができた。

今回のテーマは「High! Five!! 5つのきっかけ」である。このテーマに込められた想いは、今回のつどいだけの交流で終わらず、今後につながる関係を構築できるよう、様々なレクリエーションや交流を5つのきっかけとして考案した。

準備段階で最も苦勞した点は、参加青年30人のモチベーションをつどい当日まで維持することだった。韓国青年側は、今年度の韓国派遣団と同様に、1か月前から日本派遣の準備を行い、ディスカッションもパフォーマンスも高い水準のものを用意してくるため、その内の1プログラムであるつどいの準備もしっかりとできている状態である。

しかし、つどいの日本参加青年は一般参加者であり、また本プログラムは、今まで国際交流に参加したことがなかった人が初めの一歩として設けられている側面もあ

り、初めて国際交流事業に参加する青年もいた。そのため、相手側がどの水準で準備してくるのかなどを知らないまま準備をするため、韓国青年側と日本青年側でのプログラムに対する準備に差が生じていた。

この点を改善したいと思い、直接顔を合わせる前からLINEを活用し、自己紹介や合流、ディスカッション準備を行うなど参加青年側もつどい参加前から活動してもらう取り組みを多く考案した。その結果、日本青年側も十分に準備した状態でつどいに臨むことができた。

つどい当日は、実行委員としてうまく交流できていない参加青年をどのようにサポートしていこうかなどを心配していたが、初めのプログラムであるアイスブレイクから両青年が打ち解けあい、心配は全く不要であった。そして、最終日には嬉しいサプライズがあった。日韓両青年からつどい実行委員に向けて、感謝の寄せ書きと贈り物を頂いたのだ。つどいの二泊三日の間に日韓の参加青年が考案し、企画してくれたからこそできたことである。

この短期間でも共に力を合わせることができた青年であれば、テーマでもある「今後につながる日韓関係の構築」を築けるのではないかと感じた。実行委員だけでなく、両国の参加青年とも参加意欲が高く、積極的に関わってくれたおかげで、本当にいいつどいになったと思う。1人でも多くの方が本当にいい会だった、逆にここがダメだったから来年は自分がつどいを変えたいなど、何かしら思い出に残るプログラムになればいいと感じている。また、私自身も今後も引き続き、韓国は勿論、韓国以外の国にも日本を発信していける人間になりたいと考えている。



サプライズで実行委員が参加者の誕生日を祝う
(筆者真ん中後ろ)



日韓青年からサプライズで寄せ書きをもらう

参加者の声

日本青年

- 昔から興味を持っていた韓国について、今まで知る機会や韓国の方と話す機会がなかったので、このようなプログラムに参加できて良かった。
- プライベートで互いの国について話している時、初めて相手の国について知ることができた瞬間が一番楽しく、お互いに仲良くなれたと感じ、非常に印象に残った。
- つどい参加中は、お互いを尊重する雰囲気があり良かった。
- ディスカッションは日本人同士でもあまりした事がないのにできるか不安だったが、外国の方と一つの話題に対して意見を述べるということへの期待もあり、実際本当に楽しく印象に残った。
- 特にマニトが良かった。相手を知るまでワクワクした。



韓国青年

- 日本青年との多様な交流プログラムの中で、直・間接的に日本という国を体験し、理解できる機会となった。
- つどいで会った人々は、私にとって初めての日本の友達で、2泊3日を一緒に過ごしながらか文化交流ができて、凄く良かった。
- 日本人・韓国人がそれぞれ混合でルームメイトになったのが初めての経験となり意義深く、楽しい時間だった。
- 日本人と長く一緒にいることで、日本をもっと深く理解するきっかけになって良かった。
- 実行委員も参加者と同じ年代だったので、とても楽しかった。
- 日本青年と一緒に生活することで、より深く日本の文化を勉強することができた。



滋賀県プログラム (7月29日～8月2日)

7月29日から8月2日まで、滋賀県にて地方プログラムを実施した。

一行は、7月30日、co-ba OMIHACHIMANにて滋賀プログラムのオリエンテーションを受けた。その後、一行は6グループに分かれ、ラコリーナ近江八幡、株式会社カワサキ、八丁堀めぐり・和舟ツアーなど、近江八幡の地元企業や観光名所を散策することを通して、近江八幡の文化と伝統を学んだ。

翌7月31日、一行は2グループに分かれて、滋賀県の地元企業である株式会社みんなの奥永源寺および株式会社Rose Universeをそれぞれ視察した。

翌8月1日、一行は午前中にグループ別評価会を行い、2日間の振り返り及びグループ発表を行った。午後にはco-ba OMIHACHIMANにて、滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局主幹出席のもと、歓送会が執り行われた。

翌8月2日、一行は滋賀県庁公館にて、三日月大造滋賀県知事参加のもと表敬訪問を行い、直接青年と知事の質疑応答時間などが設けられた。

滋賀県プログラムにおける韓国青年の感想として、「普段あまり接する機会のない、近江八幡の散策や地域企業訪問などの趣旨や内容にすごい満足した」や、「『夢を語れ』の講演は、涙を流すほど素敵だった」等があった。



伝統工芸であるウッドアクセサリーを作成する
(株式会社カワサキ)



歓送会では、地元シェフによる「近江八幡と自然」をテーマとしたオードブルが振る舞われた (co-ba OMIHACHIMAN)



三日月大造滋賀県知事と記念撮影する (滋賀県庁公館)

受け入れを通して

「目的のある」プログラムとなるように、プログラムを通して感じてほしい「気づき」や「学び」を何にしようか時間をかけて考えました。議論の末、プログラムを通して「地球上に生きている一人の人間として、どのように生きるのか（滋賀IYEO会長のお言葉を拝借）」について青年たちが考える機会を提供することをプログラムの第一の目的としました。プログラムは二部構成で、第一に、滋賀に根づく「三方よし」の考えを学び（インプット）、第二に、自分は何がしたいのか、社会のために何ができるのか「夢を語る」（アウトプット）ためのコンテンツを準備しました。

第一部（インプット）では、滋賀の近江八幡に根づく「三方よし」の考え方を、地元の起業家とのディスカッションや企業訪問を通して学びました。近江商人が提唱する「三方よし」とはCSRやソーシャル・ビジネスの先駆けとなる考え方であり、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の言葉が意味するように、社会を尊重する考え方です。近江八幡をベースに活動する起業家を3名お招きし質疑応答形式の講演をし、その後、実際に会社に赴き「目」や「手」で触れることで「三方よし」の考えをより深く理解してもらいました。

第二部（アウトプット）では、「三方よし」の考え方を個人に応用して当てはめることで、自分は何がしたいの

か、社会のために何ができるのか「夢を語る」時間としました。売り手である自分の強みや希望と社会のニーズが重なり合うところとは何か考えてもらい、その後その夢をグループの青年に語ってもらいました。講演者としては、ラーメンを通して夢を語る人を増やすことを企業理念に掲げるYume Wo Katateの西岡社長をお招きし、夢を持ち、それを言葉にすることの重要性を学びました。

以上のように、『「地球上に生きている一人の人間として、どのように生きるのか」について考えるきっかけをつくる』ことをプログラムの軸とし、多様なコンテンツを企画しました。他の工夫した点としては、日本人青年の参加人数・時間を増やしたことです。16名の日本人青年を3日間の全てに企画に参加してもらうことで、日韓の青年が「1度切りではない」より深い繋がりや友情関係を築けたのではないかと思います。最後に、実行委員長の経験を通して私が得た「気づき」や「学び」を振り返ると、日韓青年に伝えたかったこと共通していました。プログラム当日や企画段階における多様な方々との関わりを通して、「私らしさ」とは何か、またそれをどう社会に活かしていけるのかを深く考えることできた、と感じています。素敵な機会をありがとうございました。



滋賀県実行委員の集合写真（筆者、左から2番目）



滋賀県プログラムの説明をする（筆者右）

岐阜県プログラム(8月2日～5日)

8月2日、バスで岐阜県に入った一行は、岐阜県の伝統文化を紹介する「長良川うかいミュージアム」を訪れた。ここは岐阜市を代表する伝統文化である「長良川の鵜飼」の価値を紹介・情報発信する施設となる。うかいミュージアムでは地元の高校生から説明を受けながら理解を深めた。宿泊場所にチェックイン後、夜には実際に「長良川の鵜飼」を見学する機会が設けられ、鵜飼を通じた自然との関わりについて、直接見聞を深めた。

翌8月3日午前は、岐阜県の大垣東高校に訪問した。地元高校生との交流を通して、日本の学校文化などについての理解を深めた。午後は「奥の細道むすびの地記念館」及び、日本で一番の生産量を誇る岐阜県の伝統工芸「枡」を作る体験プログラムに参加した。その後は岐阜県庁へ向かい、岐阜県環境生活部長を表敬訪問

した。部長から、岐阜県の特長や魅力、韓国との関わりについてお話をいただいた。

18時半からは、ホストファミリーとの対面式を兼ねた歓迎会が開かれた。

歓迎会では岐阜県職員を始め、ホストファミリーや地元青年等、多くの関係者が参加をし、盛況であった。歓迎会終了後、韓国青年はそれぞれホームステイに向かった。

8月5日、ホームステイから帰着した一行は、地方プログラムの行程を無事終了し、帰京した。

岐阜県プログラムにおける韓国青年の感想としては、「地域の伝統と特色を十分に味わうことのできるプログラム構成で良かった」「県庁への表敬訪問が非常に有意義だった」「ホームステイが特に良かった」等があった。



高校生と交流する（大垣東高校）



ホストファミリーと記念撮影する（歓迎会）



石原佳洋岐阜県環境生活部長と記念撮影する（表敬訪問）

次世代へ繋げる活動

岐阜県での地方プログラムの受入れは、多くの皆さんに支えられて実現できました。心よりお礼を申し上げます。

最初の実行委員会で決まったテーマは、「文化を通した草の根交流の推進」です。これまでの地方プログラムの受入事業でも、各所の視察や訪問を通して地域の方々との交流ができるプログラムを実施してきましたが、今回は特に同世代との交流の機会を中心に設定したいと考えました。お互いに学び合い、相互により影響を与えると考えたからです。交流一つが、鵜飼のボランティアガイドをしている高校生によるうかいミュージアムの館内案内です。韓国青年団と高校生ガイドの間には最初は少し距離がありましたが、日本語と英語を交えて、お互いに何とか伝えようとする中で、館内を一周するころには、すっかりと打ち解けている姿が印象的でした。交流後、話を聞くと、日本語を流暢に話す韓国青年に触発され、韓国の文化や言語に興味をもったという高校生もい

ました。また、熱心に展示を見て、質問をする韓国青年やそれに答える高校生ガイドの姿に刺激を受け、自分たちの文化についてもっと学びたい、伝えたいという意欲につながったという感想をもったボランティアメンバーもいました。こうした感想を聞けることが、私たちの活動の原動力となっています。

また、ホストファミリーや当日のボランティアスタッフとして、これまでに受入事業を経験したことがない方たちにも参加いただきましたが、本当に楽しかった、これを機にぜひまた、とっていただける方が多く、すばらしい時間を共に築いてくれた韓国青年団のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の受入活動では、地域の人々を巻き込んでいくことが、一緒に地域貢献活動をしていける仲間につながっていくのだと改めて実感しました。いただいたご縁や学びを大切にして活動を次へつなげていきたいと思います。



「奥の細道むすびの地記念館」にて講話をいただく



ホストファミリーと共に記念撮影する

はじめてのホームステイを通して

今回、友人からの勧めでホストファミリーとして参加しました。まさか、自分がホームステイを受け入れる立場に恵まれるなんて思ってもいませんでした。私自身が学生時代にホームステイを経験し影響を受けたこと、2人の娘が外国に興味をもっており、異文化を知り視野を広げるよいきっかけになると思ったことからホストファミリーに応募しました。

歓迎会では、何度もホストファミリーを経験されている方や、韓国語の堪能な方を前に、私たちは場違いではないのかと不安にもなりました。しかし、みなさんと話しているうちに、私たち家族の飾らない“らしさ”を知ってもらうのが一番だと思えるようになりました。最初はとても緊張しましたが、笑顔の素敵な二人にその不安も和らいでいきました。

歓迎会后、自宅に戻り家族全員との対面。我が家へ来てくれた二人は一生懸命に日本語で自己紹介をしてくれました。言葉が通じずもどかしい思いをすることもありましたが、辞書をひき、スマートフォンを駆使して、言葉を探しながらコミュニケーションをとりました。みなさんでも花火もしました。田舎で何もなく面白くないかもしれないと心配していましたが、星空がきれいだと感動してくれました。距離が縮まったと感じる瞬間でした。

2日目、夏休みとのこともあり、娘たちと一緒にラジオ体操に参加しました。早朝から体操する不思議な光景が面白かったそうです。朝食は、この地域ならではの喫茶店でのモーニングに行こうと思って入りましたが、研修

中ホテルでのバイキングが多かったとのことだったので家でごはんを用意しました。お味噌汁、卵焼き、焼き魚と簡素なものでしたが、喜んでくれました。特に卵焼きは韓国で食べているものよりもおいしいと好評でした。その後、自然の風景が見たいとのことだったので、徳山ダムまでドライブをしました。夜はサプライズで浴衣を用意し、みんなで浴衣を着て長良川の花火大会に出かけました。写真を撮ったり、屋台でかき氷を食べたり、友人について、家族について、韓国で流行っていること、好きなアイドルのことなどを話したりして、賑やかで楽しい時間でした。

あっという間の最終日。家でゆっくりさせてあげたいと考えていたところ、長女のサッカーの試合を見に行きたいと言ってくれました。会場が遠方のため集合時間にぎりぎりになってしまうことや、連日の猛暑で体調が心配でしたが、それでも応援に行きたいと言ってくれたのがうれしくて、試合会場へ向かいました。前日に仲良くなった長女のサッカーチームの仲間たちは、見送りました。別れの時、笑顔で見送るつもりでしたが、家族みんな我慢できず涙が止まりませんでした。言葉が通じなくても、文化の違いがあっても、様々な難しさがあっても、相手を理解しようとする気持ちさえあれば、心は通じ合えると実感した日々でした。私たち家族にこのような機会をいただけたことをとても幸せに思います。ありがとうございました。



家族全員と朝食を食べる



韓国青年と一緒に長女のサッカー試合を応援する

東京プログラム (8月5日～7日)

8月6日午前、評価会を行い、「本事業に参加して学んだこと」「今後この経験をどのようにいかしていきたいか」「プログラムの改善点等」の3点についてグループディスカッションを行った。韓国青年各々の事業の成果を振り返るとともに、今後の活動に向けての展望を話し合った。

11時45分からは、福田正信内閣府青年国際交流担当室長主催の歓送昼食会が開催された。歓送昼食会では、今回の招へい事業関係者が集まり、親しく懇談するとともに

に振り返りを行った。

6日午後、韓国青年は日本青年との都内視察を行った。日本滞在中に出会った日本青年が多数駆けつけ、彼らの案内のもと、グループに分かれて都内を視察した。日韓両国の青年は日本語・韓国語・英語をおりまぜながらさらに交流を深めることができた。

翌7日、一行は、成田国際空港へ向かい、13時55分発KE704便で帰国の途につき、15日間の日程を無事終了した。



二週間のプログラムを振り返る（評価会）



空港に見送りに来た日本青年と記念撮影する

